

説明的文章の授業づくり(その1) 「教材研究の仕方」

- ・ 説明文は何を教えればいいのか分からない。
 - ・ 要約や要旨をまとめる指導の仕方が分からない。
 - ・ 児童生徒が主体的に学ぶために、どんな発問をすればよいか分からない。
- そんな悩みを持っている先生方も多いと思います。そこで、「教材研究の仕方」と「単元構想シート」の作成を通して、授業を見直しましょう。



説明文を学習するねらい

- 1 内容の把握 筆者が伝えたいことを正確に読み取ること
- 2 構造の把握 筆者の表現の仕方を理解し、評価すること
- 3 考えの形成 筆者の考えに対して自分の意見、感想をもつこと

説明的文章を分析的に捉える「9の視点」を使った教材研究

A 構造の把握

- ①大きなまとまりに分ける。
 - ・ 「始め」「中」「終わり」に分ける。分けた根拠を話し合う。
- ②「始め」「終わり」をまとめる。
 - ・ 「問い」「話題提示」、「答え」「結論」を捉える。
- ③「中」に分ける。
 - ・ 「事例」「実験」等を基に分ける。分けた根拠を話し合う。

B 内容の把握

- ④「中」の内容を要約する。
 - ・ 事例毎に小見出しを付けたり、要約したりする。
- ⑤筆者の主張を捉える。
 - ・ 筆者の主張を要約する。
- ⑥全体の要旨を捉える。
 - ・ これまでの要約文を基に全体の要旨をまとめる。

C 論の進め方

- ⑦論の進め方を捉える。
 - ・ (小低) 問いと答え、順序
 - ・ (小中) 考えと事例、結論と理由
 - ・ (小高) 事実、感想、意見
 - ・ (中学) 中心と付加、主張と例示
- ⑧論の進め方の工夫を生かして文章を書く。
 - ・ クイズ、記録文、報告文、説明文、意見文、解説文等
 - ・ 「書くこと」の言語活動との関連を図る。

D 考えの形成

- ⑨筆者の主張に対する自分の考えを持つ。
 - ・ 筆者の考えについて、自分の考えを持つ。
 - ・ 条件を付けて書かせる。

作品を分析的・論理的にとらえる9の視点

単元名 [アップとルーズで伝える]

学年 [4年]

分類	視 点	児童生徒に読み取らせたい内容
A 構造の把握	①大きなまとまりに分ける	○問い「アップとルーズではどんなちがひがあるでしょう。」 ○テレビの事例と写真の事例 ○結論はどこに書かれているか。 ・ 接続後「このように」
	②「始め」「終わり」をまとめる	○「始め」 ・ 「アップ」と「ルーズ」の説明、筆者の考えと問い ○「終わり」 ・ 結論
	③「中」に分ける	○事例1…テレビ 事例2…新聞 ○アップの長所と短所、ルーズの長所と短所
B 内容の把握	④「中」を読み、それぞれの内容を要約する。(見出しを付ける)	○事例1について ・ アップの長所と短所 ・ ルーズの長所と短所 ・ テレビのまとめ ○事例2について ・ 新聞のまとめ
	⑤「始め」「終わり」を読み、筆者の主張を捉える。	○筆者の主張 ・ 送りは伝えたいことに合わせて、アップとルーズを選んだり、組み合わせたりする必要がある。 ・ 友達に何かを伝えたいとき、アップとルーズを使うことでより分かりやすく伝えることができる。
	⑥要旨を捉える。	
C 論の進め方を捉える	⑦論の進め方を捉える。	○「始め、中、終わり」で構成されている。 ○「中」は2つの事例を紹介している。 ○アップとルーズそれぞれの長所と短所を対比しながら説明している。
	⑧論の進め方の工夫を生かして文章を書く。	○「アップ」と「ルーズ」の対比を用いて、身の回りのことを友達に伝える文章を書く。 ・ 行事作文、新聞等
D 考えの形成	⑨筆者の主張に対する自分の考えを持つ。	○アップとルーズのそれぞれの良さや対比して書くことの分かりやすさをまとめさせる。

「9の視点」を活用した分析例

「9の視点」を活用して説明文の構造や内容を分析することで、この教材で児童生徒に捉えさせたいことが明確になります。みなさんも、「9の視点」を活用して教材研究を行ってみてください。

